真の「遊び心」を養おう

文学部長　湯浅信之

文学部玄関

新入生諸君、入学おめでとう。文学部は君達の若さと情熱に期待を寄せ、お客様としてではなく、共に遊ぶことのできる仲間として心から歓迎する。諸君はいま解放感を味わっているだろう。それはよいことである。君達がやっと自己を取り戻したことを意味するからだ。我々が本当に自己を獲得することができるのは、遊んでいる時なのである。だから大いに遊ぼうではないか。ホイジンガという歴史家は名著『ホモ・ルーデンス』の中で、遊びは文化の不可欠な要素であると主張している。俳人芭蕉も「予が風雅は夏炉冬扇のごとし」と言って、無益に見える遊びの重要性を指摘している。

しかし、真の遊びとは何であろうか。ゲームやスポーツは真の遊びであろうか。「一定のルールに従って楽しい行動をする」という意味では、それ等は遊びであるが、完全な自己獲得という視点からは遊びとは言い難い。他人が作ったルールへの服従を強いられるからである。真の遊びは「自らルールを作って、それに従い楽しい行動をすること」であろう。学問はそのような遊びを提供してくれる。文学部にはこのような意味での遊びを楽しむ機会も手段も用意されている。また、真の遊びの達人たちも多くいる。それ等を余すところなく利用して、真の「遊び心」を早く養って欲しいものだ。

本年度は文学部の移転の年である。新キャンパスの充実にも協力をお願いしたい。

自分を磨こう

文学部学生　武田知沙子

新入生の皆さん、御入学おめでとう。何かと制約の多かった受験生活を乗り越え、やっと解放の喜びを味わっている頃だろう。あれもやりたい、これもやりたい、と希望に満ちている反面、これからの生活に新たな不安ととまどいを感じている時かもしれない。

そこで、新しい第一歩を踏み出した皆さんに、一つ提案したい。それは、大学時代に自分を磨くことだ。クラブ活動や学問、趣味、交友関係など、あらゆる角度から心を豊かにし、知識を深め、自らを成長させることである。私は、一生人は成長し、向上していくべきだと思う。その機会が最も多く与えられているのが、大学生活ではなかろうか。多くの友、尊敬する教授、若さ、時間、その他たくさんのものが大学には満ち満ちている。やっとたどり着いた大学生活。けれど、いつまでも続く楽園ではない。

限られたこの時間を実りあるものにするために、常に、どん欲な向上心を持ち続けよう。